

「エキスポ'90みのお記念の森」で森のふしぎ発見!? ～地元小学生が森を探検!自然にふれあい!森の大切さを深く学んだ!～

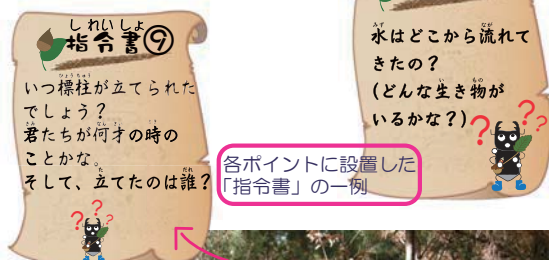
平成30年11月29日(木)、箕面市立豊川北小学校(以下 豊川小という。)の4年生の生徒85名が、箕面国有林にある「エキスポ90'みのお記念の森」で、箕面森林ふれあい推進センターが開発した森林環境教育プログラムである「森の探検隊」を体験しました。

「森の探検隊」とは、「エキスポ90'みのお記念の森」内に設定された25箇所あまりのポイントから、グループ内で相談し、予め決めておいた5ポイントを巡り、各ポイントに設置された「指令書」の謎かけを解いていくことで、自然に触れ、楽しみながら森の不思議を学べるよう工夫されたプログラムです。

今回、5回目の参加となる豊川小では、6～7名を1グループとし、14班編成としました。

子供たちは、事前にポイント名やポイントの概要などを確認し、回るポイントを選択し、記録係やカメラ係など役割分担を決めておくなどの準備をして臨みます。

また、大阪森林インストラクター会にもご協力いただき、事前のポイント設定のアドバイスの外、当日は引率役として会員12名の方に応援いただきました。



アドバイスを受けながら
みんな考え中...?!



なるほど!! 柵がないと
草がなくなるんだ。



当日は天候にも恵まれ、参加した子供たちは元気いっぱい、キラキラと目を輝かせながら、ポイントにある「指令書」に真剣に向き合い、森や自然について色々と調べてくれました。

参加した子供たちに、森の多様性、効能、楽しさ、増えすぎたシカの被害対策の苦労などを少しでも感じてもらえたら幸いです。

午後は、場所を「箕面ビジターセンター」に移動し、NPO法人みのお山麓保全委員会の方々からの指導により「水辺の生き物調査」、「森の自然工作」、「ビジターセンター展示室見学」を体験し、「水辺の生き物調査」では、箕面川から採取したトンボの幼虫など昆虫類や小動物を観察し、森と川のつながりなどを学ぶなど、箕面の森の豊かさを実感してもらいました。

参加した子供たちから、「楽しかった」、「また参加したい」、「森のふしぎがわかった」などの言葉をもることができ、我々の活動を進めるうえでの励みとなりました。



箕面ビジターセンター見学



この生き物はなんだろう？



自然工作って楽しいね！



森のふしぎを後世に伝えて（下級生への伝達）!! ～「森の探検隊」発表会～

平成31年3月13日（水）、箕面市立豊川北小学校において、昨年11月に「森の探検隊」に参加した4年生による体験発表会が行われました。

子供たちは班ごとに、模造紙を使って大きなリーフレットを作成し、森の中で自分たちが見て、触って、感じたことや調べたことを取りまとめ3年生に伝えました。

3年生からは、自分たちも今年は体験できるとの期待に満ちあふれた表情で食い入るように発表を聞いていました。

この取組の継続により、子供たちの森への関心は一層深まったのではないかと思います。

年号も平成から令和に移り変わりましたが、森林環境教育の推進にむけた箕面森林ふれあい推進センターの活動として継続して取り組んでいくとともに、これからも子供たちが山を楽しみ、森に関心を持って学べるプログラムになるよう努めて行きたいと考えています。



カブトムシの飼育を通じて「命の大切さを学ぶ」 「カブトムシ里親まつり」を開催!!

7月7日(日)、箕面国有林(箕面国定公園「エキスポ'90みのお記念の森」)において、NPOクワガタ探検隊との共催イベントである「カブトムシ里親まつり(飼育編)」を開催し、15家族、37名の方々に参加いただきました。

当日は、NPOクワガタ探検隊 西理事長夫妻による創作紙芝居「帰ってこい 王者くん」を皮切りに、国定公園内での森林散策を行った後、NPOクワガタ探検隊による国産カブトムシ(地元産のカブトムシによる養殖)の配付と飼育方法について説明を行いました。

里親まつりのネーミングどおり、今回ご参加いただいた御家族には、夏の間カブトムシの飼育を行っていただき、カブトムシのこどもが生まれ、幼虫となる9月下旬から10月上旬頃には、育てた幼虫(幼虫のオス、メスのペアは各人へお返し、それ以外を放虫する。)を国有林内に設置してある昆虫ベツトに戻すイベント「放虫編」を予定しています。

今回のイベントは、森林へのふれあい体験を通じて、「森のすばらしさや森林の大切さ」を理解していただくこと、また、カブトムシを飼育し、幼虫を山に戻すといった一連の飼育活動を通じて「かけがえのない命の大切さ」を体感いただくことを目的として行ったものです。

参加いただいた方からは、①小さな子に自然とのふれあいの時間を作れてよかった、②初めて訪れたが、自然にたくさんふれあい、展望台からきれいな景色が見られて良かった、③自然の中でお弁当が食べれてよかった、④今後もこういった貴重な活動を続けてくださいなどの感想をいただきました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も様々な機会を通じて、国民の皆様方が自然に触れ合う場を提供してまいります。



オスのカブトムシ

メスのカブトムシ



森林散策



紙芝居

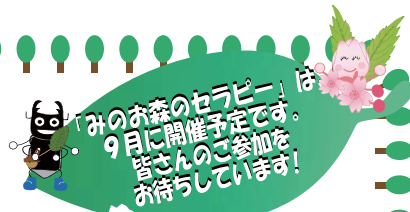


昆虫ベツト



飼育方法の説明

森の中で心身ともにリラックス！！ 「みのお森のセラピー」の開催



令和元年5月19日(日)、NPO法人みのお山麓保全委員会との協定イベントである「みのお森のセラピー」を開催しました。

本イベントは、自然の中に一日過ごしていただく中で、自然散策などを体験いただきながら、「森の中での癒し効果や自然(森林)の大切さ」などを体験しながら学んでいただくことを目的に行ったものです。

当日は、大阪府下から6名の方々にご参加いただき、箕面国有林にあります勝尾寺園地に集合後、セラピーアシストの案内により、国有林の中で瞑想をしたり、自然観察や谷川の水に足をつけて冷たさを体感するなど、森の素晴らしさを十分体感した後、最後は、各々で設置したハンモックに揺られ、心地よい眠りを体感し、約2時間の都会にはない「癒しの空間」を満喫していただきました。

参加いただいた方からは、①自然の中でゆったりと過ごす中で、普段感じられない癒しの時間が過ごせた、②森の空気、鳥の声、風の音など、5感が癒されたなどの感想をいただきました。

なお、第2回目の「みのお森のセラピー」を9月15日(日)に開催する予定としておりますので、皆様のご参加をお待ちしています。



森林の中で瞑想



森林散策



ハンモックに揺られてすやすや～☆



↑ 森林ふれあい推進事業 ↓



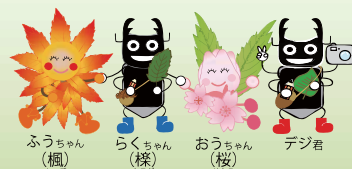
国有林のフィールドを使った「森林にふれあう機会を提供」する体験型イベントに応募してみませんか？

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センターでは、箕面市に所在する「箕面国有林」のフィールドを活用して、広く一般の方に森林に触れ合いながら「森の魅力や森林の大切さ」を体感いただくイベントを企画し、協定により実践いただくボランティア団体等を募集しています。



↑ 詳しい情報はこちらまで

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局 3F
URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
E-mail kc_fureai@maff.go.jp



国有林のフィールドを活用した 森林環境教育（教員向け）の実践

教員研修の目的

昨今の循環型社会に対応した子どもたちの「生きる力」を育むためには、森林や自然に直接ふれあい、体験する「森林環境教育（森林ESD）」の実践が有効と考えます。

一方、実際の教育現場では、「森林環境教育（森林ESD）」の実践に向けた顕著な取組はあまりみられない状況にあります。

このような状況を踏まえ、箕面森林ふれあい推進センターでは、平成16年度から、子どもたちの指導的立場にある教員を対象とした研修を実施し、教員の方々自らが、森林や自然を題材とした体験学習に興味を持ち、それぞれの教育現場で森林環境教育（森林ESD）の実践が図られるよう取り組んできました。令和元年度については、下記のとおり実施しました。



研修受講者及びスタッフ（7月29日）



創作紙芝居



森林散策（葉の香り）



授業で使える昆虫豆知識（講義）

「森の探検隊」教員研修の開催

7月22日(月)、箕面市教育研究会理科部会と共催し、「森の探検隊教員研修」を開催しました。

本研修は、今回で5回目を迎え、箕面市在中の小・中学校の先生を対象に参加者を募集（窓口：箕面市教育研究会理科部会）し、森や自然とのふれあいや体験を通じて感じたことを教育現場へ活用することを目的に開催しており、今年度は小学校教員13名の方々に参加いただきました。

午前中は、池田市において「理科専科」の教職にあるNPOクワガタ探検隊の西義史^{にしよしふみ}理事長、奥様の美和^{みわ}様による創作紙芝居や、虫、植物の視点から学ぶ生物の多様性や人との共生についての講義を受けた後、現地（箕面国有林内「エキスポ”90みのお記念の森」）を散策しながら、子どもたちが興味を引く教育手法（自然観察プログラムの立て方や五感を使った学習方法など）等について実例を交えた講義をいただきました。午後からは、箕面駅近隣に所在する箕面公園昆虫館を見学するとともに、中峰空^{なかもり}館長から「授業で使える昆虫豆知識」と題して、危険な昆虫（スズメバチなど）の対処の仕方、子どもたちが興味を引く小ネタ集（危険を察知して変化する昆虫や他の虫に寄生する虫の話など）、教室にいる小さな昆虫博士（教師より昆虫が詳しい子ども）の対応など、御自身の体験談を交えながらユニークな講義をいただきました。

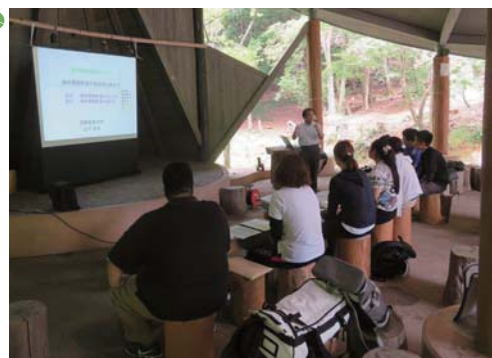
参加者からは、①子どもたちが喜びそうな豆知識がたくさんあり、自分自身も勉強になった、②五感を使っの森林体験を通じて、子ども自身の新しい発見ができると感じた、③教員自らが自然を体験することが大切であり、今後も続けてほしい、④森林環境教育の必要性を感じたという感想のほか、一方で、森林環境教育を行うための時間の確保、手軽に行ける場所や安全面の確保など、授業に取り入れることへの難しさ等について意見がありました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、本研修をきっかけに、箕面市の小・中学校を中心とした教育機関において、森林環境教育の推進が一層図れるよう引き続き取り組んでまいります。

森林環境教育教員研修の開催

7月29日(月)、大阪府箕面市に所在する箕面国有林及び関連施設において、箕面市教育委員会と共催し、箕面市に在勤する小・中学校教職員を対象とした研修を開催しました。

本研修は、平成16年度から継続して取り組んでおり、教員歴の浅い者を対象に、森林環境教育の内容や必要性について理解を深めていただくことを目的に開催しており、今回は8名の小・中学校の教員の方に参加いただきました。



京都教育大学の山下教授

午前中は、京都教育大学 やました ひろぶみ 山下 宏文教授から「森林環境教育の重要性と進め方」と題した講義をいただいた後、大阪森林インストラクター会の指導の下、ネイチャーゲームを行いました。

午後からは、きんきちゅうごく森林づくりの会に御協力をいただき、間伐体験を行いました。参加いただいた方からは、①実際に体験することで色々な発見や驚きがあり、子どもにも「体験する学習」が必要だと感じました、②「森林環境教育」について間伐の必要性など誤った認識をしているところがあったので、教師が正しい知識をもって教育を行うことが大切だと思った、③ネイチャーゲームでは、子どもたちが楽しく学べる方法を知ることができてよかった、④間伐体験を通じて、森を管理することの大変さが分かった。などの感想をいただきました。

一方、授業に森林環境教育を取り入れるには、場所を移動する必要性や移動手段など事前準備がたくさんあること、専門的な知識がないと難しいなどの課題があるとの意見もいただきました。箕面森林ふれあい推進センターでは、今回の感想等を踏まえつつ、教育機関と連携した森林環境教育の推進に向けた取り組みを今後も進めてまいります。



ネイチャーゲーム (葉っぱの見分け方)



ネイチャーゲーム (じゃんけんゲーム)



間伐体験

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局3F
URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
E-mail kc_fureai@maff.go.jp



ふうちゃん (桐) らくちゃん (樺) おうちん (桜) デジ君

体験型「森林環境教育」の実践!!

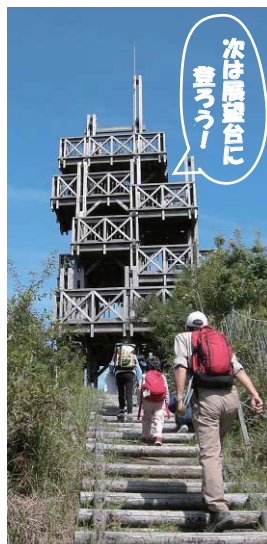
令和元年9月20日(金)、大阪府箕面市に所在する箕面国有林内の「エキスポ”90みのお記念の森」及び関連施設において、「NPO法人 箕面こどもの森学園」の小学1年生から6年生26名を対象に、大阪森林インストラクター会の協力を得ながら、ESD※の視点を取り入れた森林環境教育「森の探検隊」を開催しました。

※ESDとは、Education Sustainable Development 持続可能な開発のための教育のこと。

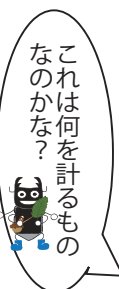
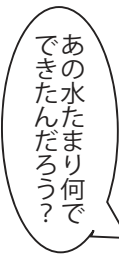
「箕面こどもの森学園」は、2015年にESDを実践している学校としてユネスコ・スクールに認証されており、「こどもは自ら学ぶ意欲をもち、自らの力で学ぶことができる」とする教育理念のもと、こどもたちの自立的な学びを自立支援する学校です。

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林をフィールドとして、こどもたちが自然に触れ合いながら、森林の機能や自然の大切さを体験学習することをコンセプトに森林環境教育やESDの活動を推進しています。このため、当学園の教育理念と合致したこともあり、今回で2回目となる森林環境教育プログラムの提供となりました。

「森の探検隊」では、箕面国有林内に設置した複数のポイントを散策し、各ポイントに設置されたカードに記載された課題をクリアすることで森林の機能や樹木について楽しく体験しながら学習できるプログラムとなっており、体験したこどもたちからは、「①広葉樹と針葉樹の違いが分かって勉強になった。②森の中の小さな昆虫を発見できてよかった。」などの感想がありました。



探検隊ポイント



次にビジターセンターへ移動し、自然解説員の指導の下、川に生息する生物をこどもたち自らで採取し、捕まえた生物の特性について、自然解説員からの説明を聞きながら、食い入るように観察を行っていました。また、日頃見ることが少ないオオサンショウウオの登場に、こどもたちのテンションもマックスとなっていました。

一連の行事終了後、こどもたち主導による「一日のふりかえり」を行いました。

ふりかえりの時間において、こどもたちからは、「①川の生物観察において、オオサンショウウオを初めて見る事ができすごく感動した。②森の知らないことが勉強できてよかった。③川にはたくさんの生物がいて感動した。④次回も参加したいです。」などの感想をいただきました。

こうした、こどもの時の体験や感動は、こどもたちの記憶に一生残り、その後のこどもたちの成長にも影響をもたらすと言われてています。

箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も地域関係者や教育機関等との連携を強化し、森林環境教育を体験したこどもたちが大人になった際に、自分のこどもへも同様の体験をさせたいと思える取組とすべく、プログラムの更なる充実と継続した取組を展開していきたいと考えております。

川の生物観察

生物たくさんとれたよ♪



ここにもいるよ!



たくさんとろうね~



どこにいるのかな?



この生物は何かな?



どの生物から観察しようかな?



この生物は
どんな特徴があるのかな?



「命の大切さを学ぶ」体験第2弾!! 「カブトムシ里親まつり（放虫編）」を開催

令和元年10月6日(日)、秋晴れの中、箕面国有林(箕面国定公園「エキスポ'90みのお記念の森」)において、NPOクワガタ探検隊との共催イベントである「カブトムシ里親まつり(放虫編)」を開催し、10家族、27名の方々に参加いただきました。

このイベントは、「こたま通信104号」で告知済みの「カブトムシ里親まつり(飼育編)」の継続イベントとなります。7月7日のイベント参加者に託された地元産カブトムシを、各家庭で一夏飼育いただき、新たに生まれた生命(幼虫)をふるさとの山に返すことで「生命の尊さとながりを体験」することをテーマに実施しました。また、四季折々の自然の素晴らしさや身近な動植物の観察を通じて、森林や自然が人とどのように関わっているのかを考える体験型のイベントです。

当日は、NPOクワガタ探検隊 西理事長夫妻による新作紙芝居(マンモスくんにもらった赤い足)により、命の大切さについて講義をいただいた後、秋の装い漂う国定公園内を森林散策し、最後に国有林内に設置している昆虫ベッドに育てたカブトムシの幼虫を放つ体験を行いました。御家族の中には、一家族で15匹以上の幼虫が生まれていた家族もあれば、残念ながら全く生まれなかった御家族もありました。



熱心に紙芝居を聞く子どもたち



西理事長からの説明



森に住む虫を観察する子どもたち



森に住む虫を観察する子どもたち



熱心に植物観察をする参加者

放虫する前に、西理事長から、「この昆虫ベットにも自然のカブトムシが産卵しているから、幼虫を探してごらん」の合図を皮切りに、子どもたちは一斉に昆虫ベットの中に入り、幼虫を見つけるとすごいお宝を発見したように目を輝かし、喜んでいる姿が、印象的でした。

この後、各家庭で育てられた幼虫も含めて、昆虫ベットにすべての幼虫が放たれました。

最後に、NPOクワガタ探検隊から、カブトムシの幼虫のペアが配られ(産卵が成功した家族は、その中から1ペアを、それ以外の御家族はクワガタ探検隊が飼育していた地元産の幼虫が配られました。)、全員が半年後の羽化を目指す誓いを立てて、イベントは終了しました。

参加者からは、①一連の飼育を通じて四季を感じたり、命の大切さを実感できた、②カブトムシになるのが楽しみ、③四季折々の自然や植物のことが学べて良かったなどの感想をいただきました。

現代社会では、人々が日常生活の中で森林や林業に接する機会が少なくなっている中、自然に触れ、森に親しむことを通じてあらゆる生き物を慈しみ、豊かな心を育んでもらえるよう、箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も様々な機会を通じて、国民の皆様方が自然に触れ合える場を提供してまいります。



各御家庭で育てられたカブトムシの幼虫



参加者で放虫しました!!
カブトムシに成長しますように☆



参加者の皆様



箕面森林ふれあい推進センター ～秋のイベント紹介～

水都おおさか森林の市で水源の森ジオラマづくり体験

10月27日(日)、秋晴れの穏やかな天候の下、「水都おおさか森林の市2019」を近畿中国森林管理局庁舎及び周辺の毛馬桜之宮公園で開催しました。

当イベントは、一般の方々が森林の恵みや木のぬくもりにふれていただくことで、森林と人とのつながりや大切さを実感し、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目的に開催しており、今回で33回目を数えます。箕面森林ふれあい推進センターでは、「水源の森ジオラマづくり体験」のブースを出展し、午前、午後の2回、先着20名(小学4年生以上～中学生を対象)限定による体験イベントを行いました。はじめに、職員が「森林と水との関わり」について説明し、森林の働きや大切さを学んだ後に、ジオラマの作成に取り掛かりました。このジオラマづくりの材料は、ケヤキやアカマツの皮やイタドリの枝、水苔などの自然素材を使った職員自らが開発した森林環境教育の教材です。参加者は、各々のアイデアと材料を駆使し、地面やミニ樹木、滝などを作成し、徐々にできあがっていく自分だけの「森」に一喜一憂しながら、森林と水との関わりを感じながら作成しました。思い思いの作品を手に満足そうな子どもたちの笑顔が印象的でした。このイベントをきっかけに、子どもたちが、森林の働きや自然に興味を抱いてくれることを願い、今後もこの活動を続けてまいります。



みんなでジオラマづくり



うまくてきたよ!

みのお森のセラピーの開催

本イベントは、自然散策などの体験を通じて、森の中での癒しの効果や自然(森林)の大切さを実感し、学んでいただくことを目的として開催しています。

今回は、春(5月19日(日))に実施したイベントの続編として、10月20日(日)、11月10日(日)の両日に開催し、総勢22名の一般の方々に参加いただきました。当日は、秋晴れの穏やかな日差しのなか、「セラピーアシスター」と呼ばれるイベントガイドの案内の下、国有林内での自然観察や瞑想、ハンモックに揺られながら、鳥の声や川のせせらぎを聞き、心地よい眠りの体験など、約2時間にわたって、都会では体験できない「癒しの空間」を満喫していただきました。参加者からは、①森歩きの楽しみ方を学ぶことができました、②前日から参加を心待ちにしており、期待以上にリラックスした空間を体験できました、③日常の生活から離れ、ゆったりと過ごすことができよかったなどの感想がありました。今後も、広く一般の方々に森林の素晴らしさを実感いただけるよう取組みを進めてまいります。



ハンモックでゆらゆら



森林散策

アサヒビール森林保全活動への協力



11月9日(土)、明治の森箕面自然休養林に指定されている箕面国有林内において、森林の保全・整備活動を通じてレクリエーションの森の活性化を行い、当センターの活動でもある生物多様性の保全の一環である外来種(ウシガエル)の駆除等にも御協力をいただいている「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」からの要請を受け、本協議会のオフィシャルサポーターであるアサヒビールの森林保全活動へ参加しました。森林保全活動を行った「箕面体験学習の森」は、当センターの活動拠点でもあり、地域関係者等と連携した各種イベントも数多く実施しているフィールドです。当日は、里山再生の一環として植林した広葉樹を保護するために背丈ほど伸びた下草の刈り払い作業や、区域内の立木をシカの被害(剥皮被害)から守るため、シカ被害防止用の単木防護ネットを設置する作業を行いました。また、木材利用の推進をPRするため、木材(薪)を使った子どもから大人まで楽しめるスウェーデン発祥のゲーム「クップ」の実演を、参加者を交えて実施しました。初めて目にするゲームに戸惑いもありましたが、ゲームの後半には投げたカストピナ(木棒)が的(クップ)に命中すると、小気味よい音が林内に響き、参加者からは歓喜と落胆の声が相互に上がっていました。「クップ」は、スポーツの得手不得手や年齢に関係なく楽しめるゲームであり、これからも様々な場面で普及活動を行い、木材利用の推進に向けた取組を行うとともに、各種ボランティア活動の要請に対して協力等行ってまいります。



※クップとは、スウェーデン発祥のゲームで、チーム対抗で向かい合い、カストピナ(木棒)を投げて相手チームのクップ(木片)を倒し、全部倒した後に中央のキング(王様)を倒すと勝ちとなる的当て・陣取りゲームのこと



「山とみどりのフェスティバル」に出展

11月3日(祝)、箕面の自然環境の保全などに関わる市民団体やNPO等の活動紹介などを目的に、箕面市、NPO法人みのお山麓保全委員会が主催する「山とみどりのフェスティバル」が、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場に開催されました。当日は、2,000人を超える来場者の下、箕面森林ふれあい推進センターからは、森林の働きや大切さを伝えるために「水源の森ジオラマづくり体験」のブースを出展しました。参加者は、思い思いのイメージする水源林を作製しようと、悪戦苦闘しながら、熱心に取り組んでいただきました。世界に一つしかないオリジナルの「水源の森ジオラマ」の完成に皆さん御満足いただけた様子でした。今後も、地域に密着した活動を通じて、国有林や森林の魅力について、一般の方々に伝えるべく、取組を進めてまいります。



林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局3F
URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
E-mail kc_fureai@maff.go.jp



接続可能な社会づくりの人材育成を目指して！ ～森林環境教育教員研修の事例を報告～

令和2年2月16日、「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナーin大阪が、近畿中国森林管理局大会議室で開催され、教育関係者など87名が参加し、活発な意見交換が行われました。

セミナーでは、基調講演として京都教育大学の山下宏文教授から「新学習指導要領における森林ESDの意義・可能性」の講演がありました。

概要報告では、(公社)国土緑化推進機構の木俣政策企画部課長から、「新学習指導要領に対応した「森林ESD」の提案～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～」の報告がありました。

その後、箕面森林ふれあい推進センターを含む4つの事例報告がありました。

さかのうえ
坂上副センター長(みえ森づくりサポートセンター)から、「幅広い学校への出前授業・指導者養成・活動支援の仕組み」、高瀬企画指導専門職(国立曽爾青少年自然の家)から、「青少年教育施設における教科等と連動した森林ESDの受入体制整備」、永富教授(大阪教育大学)と牧野事務長((公財)大阪みどりのトラスト協会)から、「免許更新研修と連動した教員向け研修計画事例」と題して事例報告がありました。

最後に、当センターの倉石自然再生指導官から、「森林環境教育教員研修について」と題して、平成16年度から全国に先駆けて実施している教員研修の事例報告を行いました。

質疑応答・ディスカッションの時間で当センターに寄せられた意見には、「実施した森林環境教育教員受講後の教員への追跡調査の必要性」、「国の機関自ら研修を行うのではなく、森林インストラクター会などの団体へのコーディネートに専念しては」などの意見がありました。

当センターでは、引き続き関係者と連携を行いながら森林環境教育に取り組んでまいります。



倉石自然再生指導官からの事例報告



質疑応答の様子



第2回「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会を開催



当センターでは、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づき、「オオクワガタの棲める森づくり」をコンセプトに、里山再生に取り組んでいるところです。

「箕面体験学習の森」の保全、育生・活用について幅広く検討するために、地域住民、森林ボランティア、研究者、関係行政機関等のメンバーで構成されている検討委員会を設置しており、2月13日（木）第2回「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会を近畿中国森林管理局において開催し、令和元年度の事業報告を行いました。

検討委員会では「今後の里山整備の方向性について検討が必要」、「育生・活用事業の、育生の部分はかなり充実してきているが活用の部分がまだまだ弱い」、「植生調査については同じ場所で10年以上続けており大変貴重な資料なので、一般に公開しないのもったいない」、「昆虫ベッドについては、初めてカブトムシの育生に成功して良かった」といった意見をいただきました。このような意見も踏まえ、令和2年度第1回検討委員会については、「箕面体験学習の森」のフィールドである箕面のエキスポの森で開催し、現地を見ていただきながら今後の里山整備の方向性や具体的な整備方法等について検討することとしています。



ニホンジカ被害対策情報交換会を開催 ～箕面国有林におけるニホンジカ被害対策の取組～



近年、全国的にニホンジカによる農林業や森林生態系への被害が問題となっており、箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールドであり、国定公園や自然休養林に指定されている、大阪府箕面市の箕面国有林においても被害が継続しています。

ニホンジカの被害防止対策を効率的、効果的に実施するためには、関係団体と情報を共有することが重要であり、2月20日（木）、箕面市役所会議室において、本年度の捕獲事業を実施した大阪府猟友会、当センターなど行政機関や市民団体などで構成する明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の各団体及びモニタリング調査の受託者等関係者25名が出席して、情報交換会を開催しました。

情報交換会では、各団体の取組やモニタリング調査の概要について報告があり、「シカが主に利用している斜度と生息密度とを合わせたマップを作成し、捕獲圧をかけることができれば土砂災害防止につながるのではないか」などの意見が出され、有意義な情報交換会となりました。

今後も、箕面地域で活動している関係団体と連携しながらニホンジカ被害対策を実施し、農林業被害の低減と森林生態系保全の取組を推進していきたいと考えています。





〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号
近畿中国森林管理局内

電話：050-3160-2013 FAX：06-6881-2055

E-mail kc_fureai@maff.go.jp

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

この「年報」はホームページに掲載していますので、ご覧下さい。

